

[抄録]

<p>公益財団法人 8020 推進財団</p> <p>平成 27 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>
1. 事業名：食べることを支援するまちづくり I～ごっくん予防プロジェクト～
2. 申請者名：特定非営利活動法人メディカルケア協会
3. 実施組織：ごっくん予防プロジェクトチーム (新宿区、新宿区歯科医師会、四谷牛込歯科医師会、新宿区医師会、慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室、特定非営利活動法人メディカルケア協会)
4. 事業の概要： 本事業では、潜在化している、摂食嚥下機能支援が必要な高リスク者を早期に発見して、適切な支援へとつなげていくために、一般住民に対して、効果的な普及啓発活動（地域ぐるみの啓発活動）を行うことを目的として、以下の 3 事業を実施した。1) リスクを有する対象者への普及啓発（体験型の啓発プログラムの実施）、2) 参加者へのアンケート（実態及びニーズの把握）、3) 啓発活動に対して住民の共感・協力を得るための地域への働きかけ（機運の醸成と、今後住民自身が担い手となる啓発活動を進めていくための基盤づくり）
5. 事業の内容 地域交流館、高齢者向け研修会（商店街）、保健・医療・介護従事者向け研修会（特別養護老人ホーム）の 3 か所で、歯科医師、医師、言語聴覚士、保健師、運動指導士、NPO などが予防の観点から、楽しく参加しやすい啓発活動として、総合的かつ一体的に提供できる体験学習プログラム（摂食嚥下機能測定、チェックリスト、口腔ケア指導、オリジナル嚥下体操、口腔ケア商品紹介、嚥下体操ソング生ライブ、折り紙教室、啓発講演会、など）や窓口相談を行い、参加者から活動内容へのご意見等も伺った。実施にあたっては、事前に開催地域周辺住民や団体に対して、地域コミュニティルート、地区歯科医師会等を通じて、丁寧かつ地道な参加の呼び掛けや、本事業の趣旨説明等を行い、連携を深め、協力関係を築くことに注力した。
6. 実施後の評価（今後の課題） 地区歯科医師会の積極的関与の有効性が示唆され、今後も、本事業で築いた、住民との連携や、先進的かつ効果的な体験型プログラムを、着実に推進する事が重要であると考えられた。 1) 継続的な啓発活動（地域住民・地域医療職のキーパーソンの参画促進） ① 啓発活動の担い手（ボランティアサポーター）の創設、② 継続的な地域コミュニティへの働きかけ、③ 摂食嚥下機能支援活動啓発ツールの開発、などが必要と考えられる。 2) 高リスク者への早期アプローチ（発見と適切な支援への導き） アンケートや各種機能測定を通して、すでに明らかな嚥下障害を抱えている人以外にも、比較的多くの高齢者が嚥下障害の前段階に陥っていることが示唆された。こうした住民の嚥下機能を向上させることは、誤嚥性肺炎を防止する効果のみならず、介護予防上もたいへん意義深いことと考えられる。そこで、① 区民及び保健医療福祉関係者への楽しい嚥下体操の普及、② 相談窓口の拡充、③ 啓発機会の拡大、④ 効果的な啓発活動 などが必要である。

